

ほんにかえるプロジェクト 会報

2016年1月創刊

かえるのうた

第5号 2016・9月



画：松永氏

代表のあいさつ

代表のあいさつ

逝く夏を 惜しむが如く
鳴く蝉よ
また巡り来む 命ふたたび

過ぎ去る夏を惜しむかのように
武蔵野の林の中で今日も鳴き続ける
蝉たちよ。

幸運にも卵からかえり、長い年月
を地中で黙々と過ごせし小さき命
よ。

梅雨の終りの夜明け前、清々しい
風に透き通るような薄青色の翅を
震わせ、地上に現れし小さき者よ。

蝉はその種類によって違いがあ
れど、3年から17年の間、土の中
でじっと息をひそめているという。

天敵から逃れ、夏のまばゆい陽射
しの中に姿を現した小さき蝉よ。

そして、わずかひと月ほどの夏を
生き急ぎ、鳴き急ぐ小さき命。

そしてふたたび夏を夢見て土に
還る蝉たち。

私は現在、東京の西のはずれで路
上生活を送る人たちと関わりなが
らボランティア活動をしています。

家族との縁を切り、故郷を離れて
ひっそりと武蔵野の林の中で暮ら
す人たち。

寒い冬の朝も、暑い夏の昼下が
りも、卵からかえった蝉の幼虫が息を
ひそめて生きている土の上で寝起
きしている路上生活の人びと。

地中で眠る蝉の幼虫が、或る日羽
化してひと時の夏を鳴き続ける事
を夢見るように、彼らもまた明るい
陽射しの下で語りあい、笑いあえる
明日を夢見ているのかも知れませ
ん。

縁あって汪楠さんと知り合い、ほ
んにかえるプロジェクトに参加し
ました。

様々な理由で刑務所で暮らす人
たちに本を送る活動を手伝ってい
ます。

明日の社会復帰を目指している
受刑者の方々が、いつの日か蝉たち
が夏を謳歌するように、明るい力強
い声を上げて、限りある生命の歓び
に出会える事を祈っています。

土の中で夏を夢見る蝉も、明日の
安らぎを夢見る路上生活の人たち
も、社会復帰を目指して厳しい今を
生きている受刑者の人たちも、等し
く静かに夏を迎え、笑いあえる日の
来ることを祈って。

昔、アメリカの劇作家が言いま
した。

「苦しみは変わらない、変わるの
は希望だけだ」

田中伸彦

副代表のあいさつ 副代表のあいさつ

設立から1年-いいのかなあ

副代表 井手愛子

S. C. Q.

「シスター、刑務所に本を送る仕事を始めようと思います。」と突然汪さんから電話がありました。

それは結構なこと。

「シスター、ネーミング上手だから、考えてください。」

頼まれて引き受けたからには、全力投球しなければならない。そのための仕事は嫌いではない。

それに、微力ながら最善をつくすのが、私のモットーでもある。

3～4日後に、3つぐらいの名前を考えて

電話すると「あーもう決めました。

「ほんにかえるプロジェクト」です。」と明るい。

ええ？と言葉を失う。

そのうえ、“かえる”という言葉が受刑者にとって、本に帰って、本来の自分に帰る、家に帰ると、多重多層の意味をもつことを聞かされる(?)。

彼は私の案なんか期待していなかったんだ。ただ話してみたかっただけなんだ、と了解した。

一件落着。日常にもどろろ。

しかし、その後も、なにかかにかと電話がくる。とうとう聞いてみた。

「プロジェクトに 参加して欲しいということ？」

「そうです」

「それならそうと言ってもらわなければ」

「言いました。でも、シスター断りました」

「断ったの？」

「そうです。」

断った覚えも無いのに、いつの間にか形成逆転。

そして副代表。

この1年間、出発したばかりのプロ



プロジェクトは大・中・小にかかわらず、さまざまな出来事、問題に直面し、解決への糸口をさぐらなければならなかった。これまでの経験から問題は正攻法、正面から真っ直ぐにとりくむのがいい解決に至る姿勢だと体得していた。

しかしこの1年、汪さんと仕事をするとき、とりくまずに“打っちゃられている”ことが度々だった。

社会人1年生で、「ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）」を教え込まれた人たちとの協働のような具合にはいかない。

「怒羅権」をよんで解ったことは、裏社会には裏社会のルール・渡世法があるということだ。

今、私は表と裏を行き来しながら、全受刑者を想い、プロジェクトが大きな木となって、枝葉を繁らせ、空の鳥が憩えるほどに、成長してほしいと願っています。



事務局長のあいさつ

ほんにかえるプロジェクトも一周年を迎えることができました。これは本当に多くの有志な方のご賛同とご協力があったからこそできたことである。心から感謝しています。

私が刑務所で感じた多くの問題について問題提起はしてきましたが、ペラペラと批判をするだけで、改善に向けての行動をしていませんでした。これでは犯罪は社会全体の問題で、みんなで取り組まなければならないという訴えは空論になってしまいます。そこで実践しようと考え、団体を立ち上げる運びになり、今日に至りました。

いまでも財政難で、この活動を継続していけるかどうかは極めて不透明ではありますが、外部会員が50名を超え、中の会員は100名を超え、さらに入会待ちの人が100名もいるこの現状を社会から必要とされていると認識し、皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。どうか今後ともよろしく願いいたします。

汪楠

かえるメイトの祈り

—祈りの全文は2号に掲載—

まことの回心に 導いてください

副代表 井手 愛子 s. c. q.

“回心”はカトリック教会の教えでは、長い間、“改心”と記されてきました。おそらく、第2 ヴァティカン公会議(1962~65)で教義が全般的に見直される以前はそうだったようです。したがって、私が洗礼を受けた1957年もそのように表記されていました。もともと、改心も回心もラテン語の Conversion コンヴェルシオンの訳語で、転換・変化・改変の意味があるそうです。

ラテン語から派生した言語では、そのまま Conversion となっているそうですから、日本カトリック教会が改心から回心したと捉えるほうがいいかもしれません。

では改心と回心はどう違うのでしょうか。
国語辞書やカトリック事典を引い

てみると、

改心はカトリック事典では「罪の状態から悔い改めへ。だらしのない生活から真面目な生活へ。不信から信仰へ（回心）。」とあり、
広辞苑（国語＋百科辞典）には「悪い心を改めること、改めて出直すこと」とあります。

回心については、手元の岩波国語辞典から紹介しましょう。「キリスト教で、生活や世界に対する従来の不信の態度を改めて、信仰へ心に向けること」とあります。
広辞苑では「キリスト教などで、過去の罪の意志や生活を悔い改めて、神の正しい信仰へ心に向けること」とありました。

双方とも同じ岩波ですから、同様の説明文があっても、なんら不思議ではありません。驚いたのは、国語辞典がカトリック事典の記載に引けをとらないことです。

宗教学の分野での、教義的な深い把握と的確な記載はみごとです
驚きついでに、奥付の編者新村
（しんむらいずる）氏についての紹介

を見ますと、「特にキリシタン語学に新生面をひらき、語源五誌説に卓見を示す。」とあります。まさにそのとおりです。

「入門講座」を学んでいた時、指導司祭が“かいしん”について強調されたのは、各自の思い・言葉・行いが神の意志にかなっているか否かを糾明すること。自己の悪しき汚点を長々と悔やむことではない。立ち直る、神様に帰る方法を具体的に見出すように。残念がるだけでは何も産まれない、ということでした。



(放蕩息子が飢えをしのごうとした いなご豆)

ルカ福音書 (15/11~32) の放蕩息子のたとえは有名です。

放蕩のかぎりを尽くし、お金も人も失って、最後は豚飼(屈辱的な仕事)に雇われ、豚の餌のいなご豆で飢えをしのごうとしますが、それさえも呉れる人はいませんでした。

放蕩息子は我にかえり、ひとりごとを言った。父のところでは、十分にパンを食べている雇い人がたくさんいるのに、私はここで飢え死にしようとしている。

私は出発しよう。父のところへ帰って、お父さん私は天にそむき、そしてあなたにそむいて、罪を犯しました。私はもうあなたの子と呼ばれ

る資格はありません。どうぞ私を雇い人の一人としてあつかってください、と言おう。

そして、出発し父のもとへ帰った。

この譬えを話したのはキ

リストです。
キリストは続けます。

まだ家から遠く隔たっていたのに、父親は彼を見つけて、哀れに思い走りよって首をだいて接吻をあげた。

悔い改める改心から、神に立ち帰る回心への態度、みちのりが情景豊かに感動的に描かれています。

父親の叱責、恨み言は何一つありません。

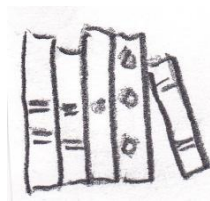
ベトナム人のヴァン・トゥアン枢機卿は不当な13年間の監禁生活のなかで、1001個のメッセージを小さな紙に書き残しました。

その中の一つに

「人の過ちは岩に彫り付けるのに、自分の過ちは砂に書く」というのがあります。

神様に告白した罪は砂のうえに書かれます。

波がうちよせてあらい流します。
なにもなかったかのように。



誰も
威張らな
いかえる
プロジェ
クト

汪さんが獄中の人のために有料で本の購入と検索を始めると聞いた時、(私はお手伝いできない)と思ったので、1年経った今も手伝っていません。

私はまだ文通10年の体験しかありませんが、ボランティアで本を送り、頼まれて検索もしてきました。手元にある本を送るのはなんでもありませんが、ない本は新刊本を買って送り特に資格試験のための本はなんとしても送ってあげねばと思っていました。

絵を描くために、〇〇の写真集を送ってほしいと頼まれた時も本屋に注文して送りました。これは依頼した方が悪いのではなく、刑務所側が入れてくれず、廃棄するか着払いで受け取るかと通知がきて、残念ながら私は廃棄にしてもらいました。返って来ても私には必要のない本だったからです。

また長形4の封筒20枚送ってほしいと頼まれ送りましたら、入らず、この場合、長形3の封筒に入れて返送してもらえば92円で戻るものと

思って返送してもらいましたら、なんと封筒 20 枚が宅急便で戻ってきて、680 円位取られた苦い経験もあります。

常識では考えられない刑務所の対応です。こういう仕事を有料でやるとなると、トラブルが多くなると思いやりたくないと思いました。検索も 1 件を調べるのに数多く検索して一番ふさわしいのを刷り出すまでにはすごく時間がかかります。だから私はやりたくないのです。

ドラゴンでデカ悪をしたという汪さんがこんなにも細かい気配りをなさるやさしさに驚いています。「かえるプロジェクト」は汪さんが自費でたちあげ、SR井手が寄付金を集められました。私は会員になっただけです。

「資金集めの一つとしてカードやはがきを作って売るから絵を描いて」と頼まれ、それなら出来ると思いお引き受けいたしました。年金だけでほかに収入の無くなった私のために最初に「レアウト代」として 5000 円くださり、紙類とインクは現物がドサッと届きました。設備投資が多く、赤字なのに。

思い遣りの深い、そして威張らない発起人は汪楠さんです。

Eiko

事務局からのお願い①

いまプロジェクトは財政難と人手不足の二重苦の中にいます。本来サポートできる人数は 40 名です。40 名なら切手でのご利用に関しても大した負担にはならず、発起人である汪の個人負担も毎月 2 万程度で継続させることができました。

しかし、宣伝もしていないのに、受刑者の間の口コミだけで受刑中の会員はあつという間に増え、150 名に達しました。外部会員の 50 名と合わせて 200 名に達しています。こんなにも多くの方々賛同していただけるとは本当に思いもよませんでした。感謝感謝。

多くの方に賛同して頂けて大変うれしいのですが、事務の量も激増しました。もはや余暇時間を利用して、片手間でできる状態ではなくなりました。この一年で 900 通の来信を受け、一通を処理するのに 2 時間もかかります。ほぼ常駐するスタッフは汪と本田恵子さんの 2 名のみで、10 時間以上も事務処理する日が続き、ヒステリックになってミスも連発するようになりました。

この現状の改善に向けて努力しています。スタッフを増員したいのですが、壁がいくつもあります。

まず事務局スタッフとして 10 名以上の方が協力して頂いていますが、会社勤めの方もいれば、いわゆる主婦の方もいます。ボランティア活動に割ける時間はどなたも限られており、週に半日が精いっぱいです。

70代の松永さんや井手シスターと80代の瑛子さんに往復で3時間もかかる事務局に来ていただくのはやはり酷すぎます。

財政難も深刻です。助成金なしで運営していますので、会費と寄付金が頼りです。慈善団体だから、お金をいっぱい貰えるでしょうという受刑者もいますが、なぜ犯罪者を助ける必要があるのかという意見が一般的で、その会費と寄付金は経費の3割しか賄えない状態です。外部の会員は3000円の会費を払っています。はっきり言って何のメリットもありません。完全な寄付です。

一方の受刑者会員は500円の年会費で、平均して月に1回弱、年間で合計40冊の本を受け取っています。これだけでも2000円の経費が掛かります。さらに本田さんによる手書きの手紙をもらっていて、もっともメリットがあります。

しかし残念なことに最も苦情を寄せているのは中の会員です。アマゾンで買い物をしてもらっても年会費さえ払えば送料が無料になるのに、受刑者からは高い送料を取り、暴利を得ているといわれる。会費を取っているから、依頼をきちんと対応しろと言って、400件の検索を依頼してくる人がいる。検索は2件までとお願いしても、200件を依頼してくる人がいる。用紙にびっしりと10件も書き込み、2件として対応してくださいという人がいる。

もちろんこれは少数派です。事務局には毎日のように手紙が来ます。

その多くは何かしらのお礼です。出所したら焼き鳥屋やたこ焼き屋をやりたいとかえるメイトに頼まれ、道具や材料の問屋情報を調べたケース。病気治療法を調べたケース。臓器の献体を希望してきた受刑者のため、知人の医師に紹介していただき刑務所近くの医師会に受け入れていただいたケース。親子間を取り持ち、仲直りにつなげたケース。原価2万円の全巻本を半値で買い、無事差し入れたケース。芸能人の写真を送って明るい朝を迎えるようになったケース。

ほんにかえるプロジェクトのサポート内容はこのように要望に応じてどんどん充実しています。更生に資しないと評価しない方もいますが、受刑者も同じ人間です。刑務所にいるからって毎日泣いて過ごさなければならないとは思いません。毎日刑務官に怒鳴られ命令されるだけでは人間性を失い、尊厳を奪われることでさらに反社会性を増すだけのように思います。

この活動は便利屋を目指しているわけではありません。同じ人間として寄り添い、喜怒哀楽を分かちあい、人間らしい生活を取り戻す手助けをしたいだけです。

先進国の中で日本の刑務所が一番人権がないと言われています。毎年のように国連から勧告を受けています。日本国内でも各地の弁護士会から数々の勧告が出されていますが、政府は真剣にこの問題に取り組む気もない。強制労働は国連の条

約にも違反していますが、日本政府は職業訓練であると詭弁するだけで、実際は働かない受刑者には最長で60日の懲罰を繰り返す科し、罰金も取っています。

日本の刑務所では水を飲む自由もトイレに行く自由もありません。受刑者を人間扱いせず人間らしく生きろと求める方がおかしいとさえ思います。

最後にプロジェクトを継続させるための話をします。

キャパの3倍を受け入れたプロジェクトはパンク状態です。値上げすることで退会者が出ると予想していましたが、一人だけでした。そもそもプロジェクトの手数料は微々たるものです。外の便利屋では6000円の基本料金のほか、1時間5000円が相場です。うちでは1件の検索に対して1時間半はかかっています。東京都の最低賃金でも907円。これに対してプロジェクトは値上げしても1枚でわずかの50円です。それでも高いという人がいます。

こういう声に対して、受刑中のかえるメイトは、心のない人を退会させる、本の無料提供や検索などは2か月に1回、3か月に1回でもいいと提案しています。プロジェクトのおかげで生活に希望が見えて楽しみができたという声が多数寄せられました。身寄りもなく、何年間も手紙をもらったことのない方からは、しみじみとするお礼の手紙をいただくと、本当に活動を継続してい

きたいと思います。

会員数を減らすか、サポート回数を減らすかの2択しかない状態にあるプロジェクト。この危機を理解して寄付して下さったかえるメイトに心から感謝を申し上げます。今年は依頼を自粛しますと申し出てくれた方もいます。みんなでの活動を支えていくためにはどうかご理解ください。

新しい料金システムに対して、札幌刑務支所のかえるメイトIさんから1万円以上の切手の寄付を、宮城刑務所のかえるメイトSさんからもトータル7,000円の寄付をいただきました。ほかのかえるメイトからも寄付と励ましのお手紙をいただいています。皆さんが作業で得られる褒賞金は少ない方では月にわずか数百円であることを知っているだけに、その心遣いに本当に感謝するとともに力の源になっています。

また当然ながら、システムの変更についての苦情も寄せられました。一人は当初の支援内容と違うことに異議を唱え、ボランティア活動の名を借りた詐欺商法という指摘をいただき、法的措置を取らせてもらうといわれました。苦情を寄せられるのも当然なことで、確かに年会費をいただいてからの料金変更に問題があります。しかし旧会員については「かえるのうた」の第4号で説明した通りの対応となります。

このようなご指摘を踏まえた上で、事務局はかえるメイト全員の年

会費を徴収した以上、年会費収めた期間内において支援を行い、道義上の責任を果たしたいと思います。そして**財政難により、現会員の更新も行わない**ことにしました。

具体的にはかえるメイトの入会時期に応じ、一年間サポートさせていただいた方から退会勧告を行います。それ以後の更新を希望される方は事務局まで申し出てください。更新時の審査基準として、プロジェクトの活動趣旨に賛同し、家族や友人と疎遠になっている方、領置金がなく、書籍を所内で購入できない方、来信等でリスタート(更生という言葉に抵抗を感じるのでリスタートとしました)に意欲を示してきた方を最優先します。残念ながら、プロジェクトの活動趣旨を理解できない方、家族や友人のサポートを受けている方や、他団体のサポートを得られている方、料金が高いと指摘してきた方、無理な要求を繰り返す方の更新は認めない方針です。無理な要求を繰り返すとは、検索は2件までと繰り返し伝えしているにもかかわらず、5件から300件も依頼してくる人、何回もアマゾン以外のサイトでの購入を求めてくる人、遠くの本屋に行って買って来いと要求してくる人、カタログを何社も請求させる人たちです。

カタログの請求はよく依頼されますが、刑務所の住所での請求が多く、多くの業者は刑務所の住所での請求に応じてくれません。またネットで商品を紹介している業者が多

いです。採算の取れないカタログ発行をやめている業者が多い。

会員数の激増に伴う事務局のオーバーワークを改善しなければ、活動そのものを継続するのは難しい状況にあります。かえるメイトからの提案で多かったのは、会員数を減らすこと、サポートする回数を隔月に減らすこと、登録料及び年会費を値上げすることなどでした。

活動を継続させるためには皆様のご協力が欠かせません。これからも建設的なご提案をいただきたいと思いますので、ぜひ事務局までお寄せください。

わんレター

事務局あての来信が10通に達する日々が続き、対応担当の本田さんに多くの作業を負担させています。本当に申し訳なく思っています。ほかのスタッフとともに彼女の手書きのお手紙に対して感謝の言葉が多数寄せられ、嫉妬する自分をみじめに感じる毎日を送っています。

プロジェクトの赤字が毎月5万円以上にもなる現状から考えますと、就労ビザがなく、無収入で家族の援助に頼って生活している自分としては、これ以上の還ってくる見込みもない経費立替はもうできません。

貯金も底がつき、修道院や私個人の支援者からお米や缶詰などの保存食をいただいて食いつないでいくものとして活動を継続していく自信ももうありません。カップ麺だけで過ごした六日の間にいろいろ

悩みました。そして結論も出ないまま飲みに出かけ、飲み屋のつけウマでキャッシングして飲み代を払いました。こんなダメダメ人間を信じられますか。預かり金で飲みに行かれたらどうするんですか。

事務局長がこんなでたらめな人間です。自分で言っているから間違いありません。本当に。



受刑中のかえるメイトは外部に現金を送ることができない場合が多い。そのため会費や購入代金は切手で支払われることが多く、事務局に大量の切手がストックして困っています。買って頂けると財政難の改善に大きく寄与しますので、ご協力をお願いします。

ほんにかえるプロジェクトは会員を募集しています。正会員の年会費は3000円。寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行

10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普) 8623921

口座名義は

ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトはボランティアスタッフを募集しています。在宅のままでもできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

入会申し込みが大変多く、対応しきれません。支援体制が整うまではお問い合わせの手紙を受け取り拒否とさせていただきますので、ロコミにて周囲へもお知らせください。

プロジェクトは深刻なスタッフ不足と資金不足状態です。解散寸前なので、到底新しく会員を迎えることは出来ません。ご理解ください。